

令和4年度 第59号

禮

造

東京農業大学

庭球部OB会
常磐松テニス倶楽部

農友会硬式庭球部

躍進

令和4年度 第59号

目 次

部 長 大 島 宏 行

巻頭言 2022 年度硬式庭球部の動向・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1

OB会会長 大 矢 四 十 六

復活したリーグ戦・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3

監 督 松 本 透

リーグ戦を戦って・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 4

OB会副会長 松 本 透

追悼 檜垣先生との思い出・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 5

三 年 生

石原圭起 (分微 3 年) まずい・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 7

林亮介 (創成 3 年) ラスト一年・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 9

加藤未悠 (栄養 3 年) あと 1 年・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 10

千歳小麦 (造園 3 年) 躍進・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 11

益子桃代 (開発 3 年) ポムル (豆髯)・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 12

二 年 生

三枝駿太 (醸造 2 年) もやしを漢字で書くと萌やし・・・・・・・・ 13

中村李暉 (開発 2 年) 来年の自分へ・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 14

針生誉也 (醸造 2 年) 拝啓、119 期へ・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 15

久富溪太 (分微 2 年) 二年生になって・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 16

藤田真義 (造園 2 年) うちの三年がぴえん・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 17

丸山昌倅 (創成 2 年) 大学生活の半分 (2 年間) の振り返り・ 18

一 年 生

青木康登 (食品 1 年) サイコロの 1 が赤いのは日本だけらしい。 19

須田橋平 (森林 1 年) 入部して約半年・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 20

シャイエ ン チャン カイ イー (バイオ 1 年) 躍進・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 21

四年生

稲荷碩竜	(資源4年)	集大成・・・・・・・・・・	22
大和田駿	(工学4年)	必勝法・・・・・・・・・・	23
小川直輝	(分微4年)	恵まれた4年間・・・・・・・・	24
片野航	(生化4年)	終わりとは・・・・・・・・・・	25
松本健太	(開発4年)	守破離・・・・・・・・・・	26
清瀬夏美	(栄養4年)	最後に語ろう 2022 字・・・・・・・・	28
田邊こころ	(醸造4年)	日常・・・・・・・・・・	30
永田夏帆	(生化4年)	完結・・・・・・・・・・	32

OB特別寄稿

昭和62年卒	富田恭正	ネコを飼う・・・・・・・・・・	34
令和4年卒	齊藤真歩	卒部から1年・・・・・・・・・・	35
令和4年卒	高橋陽明	経験・・・・・・・・・・	36

OB会だより

活動報告	・・・・・・・・・・	37
今年度OB会・現役強化金へご寄付をいただいた方	・・・・・・・・・・	37
OB近況	・・・・・・・・・・	38
計報	・・・・・・・・・・	40
新入会員の紹介	・・・・・・・・・・	41

部活動報告

戦績	・・・・・・・・・・	42
さらば先輩	・・・・・・・・・・	46
令和四年度関東大学テニスリーグ	・・・・・・・・・・	47
編集後記	・・・・・・・・・・	49

巻 頭 言

2022 年度硬式庭球部の動向

農友会硬式庭球部部長 大 島 宏 行

東京農業大学硬式庭球部OB会常盤松テニス倶楽部の諸先輩方、ならびに農友会硬式庭球部の部員のみなさん、新年明けましておめでとうございます。今年1年もご指導のほどよろしくお祈りいたしますとともに、ご活躍の程ご祈念申し上げます。昨年は大学への入校制限もずいぶん緩和され、コロナ前にかなり近い状況で活動できていると感じます。今後もコロナ感染状況が悪化せず、硬式庭球部の活動がますます活発になることを願っています。

さて、今年度の農友会硬式庭球部を振り返りますと、秋のリーグ戦は男子が4部に降格、女子は4部昇格ならずで、大変悔いが残る年となりました。男子の入れ替え戦では、最終戦まで勝敗がつかず、最終戦も3セット目までもつれ込み敗退してしまいました。3部リーグ内の順位戦では全敗で他校との力の差を痛感しました。各大学においてコロナ禍における活動制限程度は様々ですが、練習内容を工夫して実力を高めていると思います。4部の雰囲気には慣れてはいけません。3部昇格のためには農大でも練習の工夫が必要と感じています。さらに、ここ数年の部員不足も戦力が上がらない大きな原因です。全国的に高校の硬式庭球部の部員自体が減る中で、ここ数年はコロナの問題もあり活発な活動ができておりません。そのため、大学入学後に農友会に所属して部活動に力を入れようという学生が大きく減っています。入部しても途中でリタイアしてしまう学生も多いです。2023年1月現在、男子部員は9名、女子は3名で活動しており、女子メンバーはこの影響を強く受けています。今後は、優秀な部員を確保する、まずは数の確保手段を、OBOGの皆さんのお力添えを得ながら、考えていくことが必要かと思われまます。

私は2020年度から硬式庭球部の部長を務めておりますが、今年度は初めて春や秋のOB会、卒部式を開催することができました。OB会では、歴代の監督や部長の先生にも参加いただき、現役部員と先輩方の繋がりを感じることもできました。リーグ戦もホーム戦を観戦することができ、普段の個人戦では感じることができない緊張感や、部としての団結力の必要性を感じることができました。この1年間を最初の年と考え、2023年は躍進の年にしたいと思います。

東京農大世田谷キャンパスでは、二号館跡地に国際センターを建設中で年内には完成予定です。綺麗で緑が多く、開放的なキャンパスが誕生しています。コロナ収束後はOBの皆様も、是非新しく変貌した東京農業大学世田谷キャン

スへお越し下さい。そしてOBの皆様にはいつも多大なるご支援をいただき有難うございます。今後も引き続き東京農業大学硬式庭球部の応援ならびにご支援を賜りますよう宜しくお願いします。学生にとって一番心に響くのは教員ではなく皆様OBの声だと思っています。お叱りの言葉から励ましの言葉まで気軽に声をかけてください。どうぞ宜しくお願いします。

最後に、昭和47年度から平成16年度まで部長を務められました、檜垣宮都先生が令和4年7月23日（土）に逝去されました。檜垣先生には歴史ある東京農業大学硬式庭球部の活動に多大なお力添えをいただきました。この場を借りてご冥福をお祈り申し上げます。

令和5年1月7日

復活したリーグ戦

OB会会長 大矢 四十六

令和4年もコロナ禍に始まりコロナ禍で過ぎました。年あけには第8波が予想されています。

継続するコロナ禍の中でのトピックは、今年度のリーグ戦が平時に戻ったスタイルで行われたことです。リーグ戦は昨年開かれましたがそれまでと異なり1会場にまとめた開催でした。各校がキャンパス内でのクラスターの発生を嫌ってコートを提供しなかったからと聞いています。事実、農大では現在もそうですが、キャンパスへの入構には特に外部者のチェックが厳しく行われています。校友も外部者と同じで、OB会のキャンパスでの行事への出席には部長を通して事前登録をしなければコートに入れませんでした。

令和4年度のリーグ戦が各校のコートを使用して開催するオーソドックスなかたちに戻ったことは意義深いです。それはもし今年度のリーグ戦が旧来の方式で行われなかったとしたならば、これまでのスタイルのリーグ戦の経験者がいなくなってしまう事になったからです。すなわち、大学で部活のテニスをできるのは4年間です。だから本来の姿のリーグ戦が4年間行われなかったとしたら、試合について文言としては残されていても体験する機会がなくなってしまうのです。

しかし、幸いにも1年次に従来のリーグ戦を体験していた4年生が幹部として今回のリーグ戦の指揮が執れました。その結果、リーグ戦のホーム、アウェイの試合への対応姿勢が実戦活動を通して後輩が継承されました。

リーグ戦への対応姿勢は農大独自のものがあり、これは農大庭球部のだいたいの伝統の一つと言えます。普段は何事もなく無意識のうちに行われていたリーグ戦に関わる伝統の継承が、コロナ禍を通して象徴的に具現されたのです。。

ただ、継承されたリーグ戦に関する伝統にも長所、短所があります。後輩は、時代の流れの中で取舍選択して次に繋げていってほしいです。

さて、話を進めていた庭球部誌「躍進」のバックナンバーをようやく母校図書館の史料室に寄贈できました。令和5年1月10日大島部長に同行いただき原幹事長と初巻の「部報」に始まり令和3年度「躍進」58号までのうちこれまでに提供した巻を除いて全巻が揃うように寄贈しました。躍進のバックナンバーを取りそろえるに当たっては宇野前会長から創刊からのすべての蔵書をご提供いただきました。また、欠番は会員の皆様からご提供いただきました。ご協力、ありがとうございました。

リーグ戦を戦って

監督 松本 透

コロナ禍で2年間中止となっていたリーグ戦が今年から復活し、女子が2022年8月17日、男子が8月30日より始まりました。各試合の詳細については別途報告がありますのでそれを参考にしてください。結果から言えば男子は0勝5敗で入れ替え戦となり4勝5敗で4部降格、女子は最下部の5部なのでブロック戦から始まり結果5部37校中の6位となりました。

結果は極めて残念でしたが、監督としてはよく戦ったと思っています。特に男子リーグの入替え戦は2日かかりでリーグ戦らしい緊張した戦いとなり、どちらが勝っても負けてもおかしくない展開となりました。結果負けはしましたが、ポイントがかかった2年生の選手は初のリーグ戦で自身のコロナ開けにも拘わらずよく頑張ったと思いますし、また新しく入部した1年生はダブルスで勝ち、シングルスでは負けはしましたがフルセット6-6タイブレークとなる大接戦を戦いました。いずれにしても来年のリーグ戦に向けての大きな糧になる試合が多かったと思います。女子の方は5位決定戦で3勝4敗となり6位となったわけですが、やはり最終戦に勝敗がかかる緊張した展開でした。ただ心配なのは女子部員7名の内、3名は4年生でリーグ戦を最後に引退することになり、このままだと来年の女子リーグ戦は欠員状態で臨むことになってしまいます。リーグ戦はたとえ1名でも参加はできますが新規の入部者を入れない限りやがては存続の危機を向かえることとなります。

3年ぶりのリーグ戦となった今回ですが、結果はともかく再開出来て監督としては大変うれしく思っております。体育系クラブの目標はリーグ戦に勝つことが最大の目標であることは間違い無いと思っています。もちろん部活動を通して得られる全てのものがリーグ戦に有るとは限りませんし、また目的はそれだけで無いことも分かってはいるつもりです。しかしそれは目標を達成するための真剣な行動過程があることで初めて得られるものだと考えています。秋季リーグもあるにはありますが意味合いが全く違い母校の名誉をかけての戦いといったイメージはありません。

コロナ禍の約2年半はOB会活動もほとんど出来ず、テニス部員も目標が見えない過酷な状態でした。またリーグ戦というメインイベントがないまま卒部していった方たちもいました。本当に残念で仕方がないことばかりでしたが、こうしてリーグ戦を戦うとそれらをすべて忘れさせてくれる背筋がピンと伸びるような感覚を覚え、また新たな目標に向けて発進できそうな気がしています。以上

追悼 檜垣先生との思い出

OB会副会長 昭和49年 造園学科卒 松本 透

2022年7月23日、元硬式庭球部部長檜垣宮都先生がご逝去されました。農大テニス部OB会を代表致しまして、奥様をはじめご家族の皆様にご心よりお悔やみ申し上げます。そして、この躍進の誌面を借りて先生にお世話になった数々の思い出と感謝の念を哀悼の意味を込めて残して置きたいと思っております。

先生は約50年前の1972年に金木先生の後を引き継ぎテニス部の部長に就任されました。この年は前年に逃した3部昇格を目指し部員一同意気軒昂で燃えに燃えていました。先生もまだ30歳位で澁刺としており、その若さに刺激されたのか見事昇格を果たし、翌年には3部の2位（1～3部は4校制のため関東で10位）となり、農大テニス部の戦後最高位を記録しました。また卒部前に18名が先生の狭い自宅（車庫の二階の2K）にお呼ばれした時は家財道具を全てベランダに移動させての食事会となり奥様の大きなおにぎり寿司が思い出されます。当時のOBは寄ればその話で盛り上がり良い思い出となっております。本当に有難うございました。

その後、先生は61歳になる2001年まで30年の長きに亘り部長を務められました。その間、先生は部員にとってテニス部で過ごした4年間で如何にしたら良い思い出として残るか、常に気配りされていたように感じております。そのためだと思いますが現役とOBの繋がりを強化するため、OB及びOB会をととても大切にしてくださいました。また部員に対しては部員自身で考え行動することこそが部活動の基本スタンスであり、そうさせることがより良い思い出作りになると考えていたように思われます。卒部していった者が良い思い出を共有できるのは正に先生の雰囲気作りにあったようで感謝の念を抱かずにはいられません。

年月は早いもので私も卒部して50年になろうとしています。先生と過ごしたのはたった3年間でしたが、今でも忘れることはないし、一生忘れることはないと思っております。テニスから学んだこともあります。むしろ先生の温厚で誠実な人柄と、うまく言えませんが先生の持っている「人としての色気」から学ぶことの方が多かったような気がします。先生は大学教授として母校農大に多大の貢献をし、また学術的に遺したものも多々あると思っておりますが、テニス部長として遺したものも形としては見えませんが、お世話になり卒部していった者全員の心の中に先生と過ごし学んだことが後の人生の道標としてしっかり残っている筈です。

最後になりますが、私がこの追悼文を書かせていただいたことに感謝するとともに、故檜垣宮都先生のご冥福を謹んでお祈り申し上げます。

三年生

まずい

分子微生物学科 石原圭起
(茨城 私立東洋大学附属牛久高等学校)

本日は晴天なり。このような放送を耳にしたとき人は何を思うのでしょうか。「この人はマイクのテストをしているのだな」はたまた「この人は晴れということだけを単に伝えたいのかな」と人によって捉えることはさまざまであり全員の意見を統一することなど不可能なのです。

このようなことを思いながら昼下がりに目を覚ますが、外を見ると雨が降っているため今日は1日中パジャマで引きこもろうと心に刻みベッドから重く体を起こす。振り返って見ればそこには誰もいない。最近増えてきた馬やらタコやらのぬいぐるみが置いてあるだけだ。お風呂場のドアを勢いよく開けトイレに向かう。何か降ってきたような気がしたが、宝毛の話聞いたばかりなので気のせいだと思いそのまま便座に着席。視界の左端には先ほど落ちてきた2cmほどのゴキブリが何やら白いものを腹から出し、仰向けに脚をピクリと動かしながら苦しんでいるのではないか。ゆっくりと立ち上がりクローゼットから出してきたスプレーで凍死した彼にそっと手を合わせることもなく紙に包んでほかす。

そんな感じで今日も始まり、気がつけば17時を回っており生産性のない1日を終えてしまうと危惧した私はこうして3回目の躍進に取り掛かります。おそらく躍進の1人目に掲載されると思うので自由に書き綴っていこうと思います。違ったらそれはそれで面白いのであとは編集のかとちゃんに任せます。ここまででおおよそ600文字、短い人はこれくらいで終わるであろう躍進になんという熱量でしょうか。

まずは定番、過去作の読み返しをしてきました。防虫キャップは未だに取り付けていませんし、高みの見物もできていません。プチ旅行は草津くらいしか行けていませんでした。目標のキャリアオーバーは生き甲斐を増やしてくれますね。

新たに達成できたこともあります。ヨルシカのライブやマジミラは最高のひとときとなりましたし、オールカマーの現地観戦も楽しかったです。次は有馬を予定しています。コロナによる制限も解けてきたおかげで旧友や同期たちとお酒を飲むことも増えました。外の居酒屋で飲むのは高いですが楽しいです。その後のオールも次の日しんどいですが楽しいです。でもハイボールや黒霧

島、翠などはおいしくありません。なんなんですか。ビールとサワー系と日本酒とワイン、果実酒で十分です。待ちに待った研究室は第一希望の動物研に配属され、メンバーもほとんど話せる人たちでとても恵まれた環境になりました。しかし残念なことに3年後期の研究室活動がなく、今まで以上学科の子たちと仲を深めることがあまりできておりません。前期の簡単な実習のうちにもっと親睦を深めておくべきでした。それでもまだなんとかして遊びに行くこともあります。果たして映画は行けるのか、その子達とうまくやっていけるのか、どの子といい感じになれるのか。1年後の私よ、今度こそ高みの見物で笑っていてください。そして、どんなことがあったのか思い出話をよく聞かせてくださいな。

(5日ほど経ち書き進める)

今年は春関・夏関に加え初めてのリーグ戦が行われました。春関では今まで感じたことのないくらいの謎の緊張感で、思うように振ることができずトスもまともに上げられないくらいでした。2月の新進が中止になり、ステップアップも出場しなかったことによる試合離れが仇となりました。シングルスはノーポイント爆弾1年生に0で負け、ドロウ運を上げるためにも日頃から掃除をしようと思いました。その状態で優羽と挑んだダブルスでは、今までの経験を活かし無理矢理にでもお互いを鼓舞させ続けることで2次Fまで行きましたが、フルセットの末に敗れたので本当に悔しい結果となりました。相手はそのままインカレまで行ってしまったのでなんと云いますかもうほんと勘弁してください。

夏関ではノーポイントの吉村と組み一次予選から苦しい試合が何度もありましたが全て突破し2次SFまで行きました。しかし、日大のすごい奴らに身の程をわきまえろと言わんばかりの格の違いを見せつけられセカンドはタイプレまで粘りましたが負けました。シングルスでは何をどうしたいのかプレースタイルもわからなくなり、ただボールを当てるだけのような酷い試合をしました。そこから高2以来のテニス倦怠期が訪れ、7月末ごろまで全くやる気が上がりませんでした。

8月に予定していた合宿も中止となり、あと3週間ほどで始まるリーグ戦を目前に私自身もチームもバラバラで勝利に対する執念が弱い状態でした。しかし、成城大学との対抗戦において、3時間にも及ぶシングルスで負けこそしましたが大きな成果を得られることができました。ここが私にとって大きなターニングポイントとなりました。そして始まったリーグ戦もあつという間に負け続け、気がつけば入替戦に差し掛かっていました。2日間にも及ぶ対戦で最も

応援に力が入ったと思います。次の日には振り回した腕が筋肉痛になりました。

全てにおいて悔しい結果となり4年生はこれを以て引退、ついに私たちが最後の1年を担う番です。最後です。本当に全てが1度しかチャンスはありません。インカレに行くために何をするのか、伸び代はいくらでもある中であと一歩のところまで行けたので、可能性は十分にあると思います。誰だって勝ちたいのは同じですが、インカレは譲れません。残り4ヶ月でどこまで挑戦できるのか私自身にかかっていることをしっかりと自覚し、後悔することないように頑張ります。そして、来年のリーグでは全勝できるように、また、チームとしても全勝できるよう全員のテニスのレベルを上げられるようなキャプテンでありたいと思います。そのためにもマネージャーは欲しいところですね。

また、院進するためにも本格的に受験勉強を始めなくてははいけません。TOEICは何度か受けていますがこのままでは落ちてしまいます。嫌なことから逃げがちですがここを乗り越えた先に楽しいことが待っていると思い込ませてやっていくしかないのです。

大変です。部活に友達にウマ娘に院進にバイトにマジカルミライに一人暮らしとやることが多すぎてやっていけるか不安ですが、自分で選んだ道でもあるので責任持って楽しくやっていきますので、ささやかな応援よろしく願います。4年生のみなさん、本当にありがとうございました。

ラスト一年

地域創成科学科 林 亮介
(茨城 県立藤代高等学校)

風が冷たく感じるようになった11月中旬、私は躍進を書き始めた。

整列時にふと横を見ると同期が一人になっていた。なぜだろう。部活に入部した時には少なくとも5人はいたはずなのに…。

そんなことはさておき今年一年を振り返ると様々なことがあった。例年の2倍の対抗戦・練習試合、3年生で初めて経験したリーグ戦、なかなか入部しない1年生。まず対抗戦と練習試合の数は尋常ではなかった。ゴールデンウィークには東京学芸、順天堂、関東学院、東洋と立て続けに試合があった。試合が続き大変ではあったが、その分勝った時は嬉しかった。

リーグ戦ではとても悔しい結果に終わった。一度も勝てなかったからだ。ダブルスでは駿さんと組ませていただいた。入学して初めて参加した大会でも駿さんとダブルスを組んだことを覚えている。大学最後の試合で駿さんに勝利を届けられなかったことは、今でも悔しい。また組んでもらえるよう練習に励

む。今度は勝ちたいですね、駿さん。

今年も多く体験生がいたが入部し残ったのは2人だった。2人とも個性的で青木はなかなか面白い。主将と似てメンヘラなところ、物をなくすところ、全身ベージュの服がかっこいいと思っていたところなどいつも笑わせてくれる。加えてテニスがとても上手い。この先も良き友で有りたい。須田はファッションセンスが有り、テニスにも前向きで声出しもとても大きく、真面目な後輩だ。ただ、ミスが多いところが玉に瑕である。服のコーディネートを今度教わりたい。

今年は楽しいことも悔しいことも沢山経験した一年で点数を付けるとしたら60点程度だと思う。来年は4年生と最高学年になるので100点を目指し副将としての責任感を持って精進する。今年目標は3部に返咲くために部活を盛り上げることだ。また、個人的な目標はうまくいかなかったときに萎えずに前向きに物事に取り組むことです。

最後に、今いるメンバーと過ごす時間は自分の宝物なので、メンバーを大切に切磋琢磨しながら成長したいと思います。

ご清聴ありがとうございました。

あと1年

栄養科学科 加藤 未悠
(東京 都立駒場高等学校)

引退まで残すところあと1年を切りました。今年はやっと。やっとの事で夏秋ともにリーグ戦が開催されました。3年目にしてようやくです。コロナ禍に振り回されつつも、いつかは開催されるであろうリーグ戦に向けて、117・118期の先輩方を筆頭に駆け抜けてきました。それらが1つずつ実り始めた一年であったように感じます。リーグ戦ではシングルス・ダブルス共に初勝利を経験することもでき、コロナで空っぽになった3年間も決して無駄ではなく、ここまで続けてきてよかったなど初めて思わせてくれる1年でした。今にも引退しそうなことを書いていますが、これまで指導をして頂いた方々に良い結果を報告できる様、同期・後輩に支えられながら、あと1年頑張りたいと思います。

リーグ戦についてももう少しお話したいと思います。初めて経験する夏のリーグ戦は本当に楽しかったです。今思えば、部内戦で何度も競り合ったり、オーダー決めで揉めたり、リーグ直前のミーティングで熱くなって皆で泣いていたり…なんてこともありましたが、それらも全部含めて全てが充実していた時間でした。コロナ禍で個人戦ばかりの開催だったこともあるためか、農大のテニス部として、これだけ勝ちにこだわって明確な一つの目標に向かう経験は初め

てでした。当時はみんな夢中になっていましたが、今では大変な笑い話です。それだけ118期で過ごしてきた1年が濃く、一人ひとりがのびのびとテニスを楽しんでいました。リーグ戦という緊張感のある場でも全員が思う存分力を発揮できたのは、このような環境を築いてくださった4年生の永田さん、田辺さん、清瀬さんのおかげです。本当にありがとうございました。そして、4年間本当お疲れ様でした。清瀬さんには卒業までまだまだ部内戦を挑みたいと思います(笑)。

これからは、更に部員数も少なくなり寂しくなりますが、先輩方が築き上げてきてくださったチームを守って行ける様、私たちが最後まで駆け抜けたいと思います。農友会硬式テニス部を支えてくださっているOBの皆様、今後も変わらぬご指導ご鞭撻の程よろしくお願い致します。

躍進

造園科学科 千歳小麦
(埼玉 県立越谷南高等学校)

今年モ雨ニモマケズスタイルデ書クコトニシタ。モールス信号スタイルニシタ
カッタガ、添削ヲスル同期ニアマリニモ嫌ソウナ顔ヲシタノデヤメテオク。
アトハモウ、ボケノネタギレデアル。書クコトモ特ニナイ。
コノ1年、躍進デキタコトトイエバ音楽ヘノ知識ト造園ノスキルアップデア
ル。音楽ノ面デハロックバカリデハ無く、エレクトロニックヤオルタナティブ
等様々ナジャンルニ飛び込ムコトガデキタ。巷ニヨルト人ハ33歳マデニ音楽
的嗜好ガ固マリ、新シイ音楽ヘノ出会イヤトキメキガ無クナッテシマウラシ
イ。ソレヲ先32歳ノ農大ノ先輩カラ言ワレテ、トテモ複雑ナ気持ちニナッ
タ。アト12年。頼ムカラ、コレ以上新シイジャンルを切り開カナイデオク
レ。マダマダ聴ケテイナイジャンルガタクサンアルノニ、モウコレ以上ハ多過
スギルノデハナイダロウカ？アト12年ナラギリギリ大丈夫カモシレナイカ？
セメテアハ体験デキルヨウナ、オマージュソングナライケルノカ？モハヤ自分
ガドコマデ受入可能ナノカ楽シミニナッテキタ。今年ハ音楽ヤ映像業界ニモ少
シ足ヲ踏ミ入レテミタノデ、普段自ラ行カナイヨウナフェスデ新タナ発見ヲ沢
山デキタ。音楽ハ∞！

造園ノ方ハ、丁度昨年ノ躍進ヲ書き始メル時期クライニ実際ニ現場ニ行クコ
トガ増エタ。初メハタダ見テイルコトシカデキズ、真ノ指示待ち人間ト胸ヲ張
ッテイエタ。シカシ、今デハ図面ヲ渡サレテ1人デ制作スルコトモデキルヨウ
ニナッタ。目先ノコトデナク、現場全体ヲ把握シテ自分ニデキルコトヲヤレル
ヨウニナッタ。人トノ繋ガリモトテモフエタ。マダマダ未熟ダガ、少シズツ成

長シテイルナト実感デキタ。

テニスノ方ハト言ウト、完全ニリーグデ燃エ尽キタ。一生分戦ッタ気スラシテクル。コレヲ先輩方ハ4回ヤッテイタトオモウト超人ナノデハト感ジル。来年コソハダブルフォルトヲナクスカ、サードサーブマデ打テルヨウニシステムヲ変エルカドチラカニデキルトイイ。

ポムル (보물)

国際農業開発学科 益子 桃代
(千葉県 県立柏陵高等学校)

タイトルの「ポムル(보물)」とは、韓国語で「宝物」という意味だ。この可愛らしい発音と重みを感じさせるフォルムがとても魅力的で私の好きな韓国語のひとつだ。118期で過ごしたこの1年間はまさに私にとって一生のポムルだ。ここで私が何故タイトルを韓国語にしたかという、韓国人の方と2年間交際して得た、韓国語の成果を少し披露したかったからだ。

私は永田さん、清瀬さん、田邊さんの作って下さった118期の部活で、一生分の喜怒哀楽を経験したと思う。この1年間をひとことでまとめると「ずっしりした1年間」が最適だ。1番思い出に残っているのはリーグ戦期間中のミーティングだ。もちろん、リーグ戦自体もとても充実したもので、チーム一丸となって戦い抜いた、とても深く大切な思い出だ。しかし、私にとっての1番はやはりリーグ戦期間中のミーティングなのだ。部員全員の感情が言語化され、それが部員全員に伝わった特別なミーティングだった。人の感情、思い、本音をあそこまで互いにぶつけ合える空間は、私の人生の中でこれから先も出会わないと思った。また、そんな貴重な激しい空間を作り上げることが出来るだけの親密度を築き上げていたこと、部活に対して全員が本気になれていたことを改めて感じられたものすごい思い出だ。このミーティングがあったからこそ、このチームで順位戦まで戦い抜けたと思う。118期の空間はとても居心地が良く、練習が楽しみになるくらい好きだった。その分先輩方は色々な苦勞をしてくれていたのだと思う。本当に感謝の気持ちでいっぱいだ。

119期の最上級生となり、私たちが部活を作る立場になった。正解が分からない中、悩み事だけが増えていく毎日で正直とても苦しい。しかし、私には最強の先輩方も同期も後輩もいる。この恵まれた環境に感謝し、あと一年私なりに頑張ってみようと思う。119期も私のポムルになりますように。

二年生

もやしを漢字で書くと萌やし

醸造科学科 三枝 駿太

(東京 私立東京農業大学第一高等学校)

ああ、いつからだろうか一人で授業を受けるようになったのは。いつからだろうか一人でいることが当たり前になっていったのは。

今まではこんなセンチメンタルになることなかったが、一人にいる時間が増えるごとにこんなしょうもないことを考えることも増えていった。授業が終わると同時に教室を後にし、部室へと向かう。まれに部員がいる場合があるが基本一人で空き時間をここで過ごす。小学校から高校までは周りの環境にも恵まれていたためか友達に困ったことはなかった。まあでも多いわけでもなかったが。心を許せる友達が自然とできて今でも連絡を取り合っている。でも大学に入ってからはどうだろうか。自分に声をかけてくるのは、四桁の数字を聞いてくる輩（通称C友）か過去問に群がるハエみみたいな奴らばかりだ。少し話が合う友達はあるが、休日にまで会おうと思える人は未だにいない。でも、その分テニスに打ち込むことができた。今までは大した成績を残すことができていなかったが、3年になって初めて団体戦のレギュラーを勝ち取ることができた。色んなものを犠牲にしたがそんなこと以上にチームメイトたちに自分の力を認めさせた事のほうが嬉しかった。あとは夏のリーグでしっかり結果をのこせば他には何もいらなかった。入学当初は対して問題視してこなかった。どっかの陰キャも「問題は問題視しなければ問題にはならない」と言っていた気がする。

ガチャッ

「うわっまた一人でいやがるwほんとに友達いねえじゃん」

俺の一人の時間が唐突に壊された。

「友達なんていらねえよ、友達なんていると人間強度が下がるんだよ。」

「キモっ、今どきのアニメ主人公でもそんなこと言わねえよ。」

このクチの悪いちびは、部活の同期の藤岡である。入部当初から俺につきまたって来ては俺をいじり倒してくる。最初は適当に相手してきたが、一年も続くとこの憎まれ口も人を挑発しているようなニヤケ顔も自然と許してしまうようになっていった。ホント不思議なやつだ。そういうところもこいつの魅力なんだろうけど。

「それを言うお前こそここに来るってことは一人でひましてんだろ。」

「ざんねーん。ラケット取りに来ただけで一す。友達またせてるからじゃあねー。」

ガチャン。嵐のようだった。でもなぜだろう。心のどこかであいつの憎まれ口も悪くないと思い始めている自分がある。友達がいれば、人はそれにすがりどんどん墮落していくのだ。友達はいなくてもいいのだ。そんなことを自分に言い聞かせ、俺も部室を出ていった。

「来週海王大学と対抗戦組んだから、全員万全で望めるよう準備するよう
に。」

あざしたー。

海王大？どっかで聞いたことがあるな。俺はこのときはまだ気づいていなかった。この対抗戦が最悪の再会を果たすことになることを。

「やばっあぶなーい！」

白球が俺めがけて飛んできた。咄嗟に手を出したのが良くなかった。右腕骨折全治3ヶ月。最悪だ。隣の野球場からはよくボールが飛んできてはいた。今思うと今までよく怪我人がいなかったものだ。俺が最初になるとは思っても見なかったが。

これはただの序章に過ぎなかった、この俺の波乱万丈な大学生活の。

来年の自分へ

国際農業開発学科 中村 李暉
(千葉 市立柏高校)

東京農業大学2年生の中村李暉です。今回は、2回目の躍進ということで今年を振り返っていきたくと思います。しかし、もう提出期限を間近に控えているため、とんでもなく早いペースでキーボードを叩いているため、読み辛いかもしれません。ご了承ください。

今年は、大学2年生になり大学の生活にもある程度慣れてきました。最初は全くついていけていなかった講義なども、徐々にわかるようになりました。そして私生活の面でも、同じ学科の友達や部活の同期達との仲が深まり、とても楽しく過ごすことが出来ました。

一見順風満帆に見える生活を送っているように思えますが、今の僕には2つの大切なものが欠落しています。大学に慣れ、友達と遊び、どうですか？僕に足りないもの分かりましたか？そうです。テニスに対するやる気とガールフレンドです。私には、この大切な2つの要素が皆無です。最近、テニスに対するモチベーションが著しく低下しています。私は物心ついたときから、テニスというスポーツをやっていました。そのため、飽きが来てしまうのも当然の事かもしれません。例えば、彼女と長く交際していたら、それが当然になってしまい、好きかどうか分からなくなってしまう、この現象と一緒に思っ

す。しかし、その期間を抜ければカップルの関係性はさらに深まると思います。そのため僕も、今はテニスと倦怠期だと考え、テニスを少し忘れて他のことを頑張ろうと思っています。また来年躍進を書く際には、テニスとの関係性が良くなっていることを報告できればいいなと考えております。そしてもう一つ足りないもの、それはガールフレンドです。私には、ガールフレンドがいません、あ、もう提出期限まであと3分です。ガールフレンドについて、本来ならあと6000字程度書こうと思っていましたが、時間が来たためここまでとさせていただきます。

来年度は、テニスもそれ以外でも良い報告が出来るように精進いたします。

拝啓、119期へ。

醸造科学科 針生 誉也
(東京 私立成城高等学校)

どうも、みんな仲良しズッ友だよ庭球部2年の針生です。ようやくコロナ禍が収まって来ているような気がしますね。僕の大嫌いなマスクを早く外して元通りの生活を送りたいものです。ワクチンも何回打てばいいのやら分かりませんがバイト休む理由になるのでまあいいとしましょう。さあ、今年も躍進を書かなければならぬ時期がやって参りましたが何を書きましょうか。つい先日開かれた同期の飲み会か、その翌日に開かれた同期会の反省会という名の飲み会か、どちらにせよどうも仲がわる…良すぎてみんな何も言わなくても伝わっちゃうほど静かなのがテニス部らしかったですね。うんうん、伝わっちゃうんだよな～()。飲み会はいいですね。酔った人間を見るのは楽しいです。あ、こいつ酒癖悪いな、こいつは寝るな、こいつは意外と酒強いんだなとかとか。去年はテニス部で飲み会をした事がほぼ無くて今年から少しずつ集まりが増えて来て、みんなの部活とは違う一面が見れるのも飲み会のいい所ですね。今年から幹事にも任命されたし色々企画していきたいです。

危うく話忘れるところでしたが、夏リーグ。悔しいです。レギュラーとして全試合出場しましたが勝てたのは入れ替え戦での4部獨協相手に2勝のみ。計2勝9敗。入れ替え戦に勝って少し報われた部分はありますが、3部の実力には全く歯が立ちませんでした。3年ぶりに開催されたリーグ戦を経験し、乗り越えなければならない相手の実力というものを見せつけられました。我々テニス部には課題がたくさんあります。それだけまだまだ強くなれます。僕もまだまだまだまだまだまだ強くなります。この冬はいま一度、一つ一つのショットの質を見直し、ダブルス・シングルス共にテニスへの知識を深め、「針生なら勝てる」「針生にこの試合は任せられる」となるように農大庭球部において歴

史に残るような偉大なる背中を見せ付けたいと思います。

2年生になり、大学生生活に慣れ、後輩ができ、(彼女もいて)、毎日楽しくて正直舞い上がりながら順調と言わざるを得ません。もうほんと、人生楽勝ですわ。という冗談ではさておき、交代も終え部員がさらに少ない中、2人しかいないのにあまり仲が良くなさそうな3年生の先輩方を支え、こちらも2人しかいないのに仲良さそうではない1年生の後輩達を育て、同期6人もいるのに飲み会で会話が弾まず割とガチで静かになってしまった2年生の仲間達とこれからも元気に活動して参りたいと思います。

二年生になって。

分子微生物学科 久富 溪太
(東京 私立青山学院高等部)

僕は2年生になりました。2年になったら仕事が減りました。話すことは以上です。文字が足りないので自分の趣味の釣りのことを話します。10月20日の早朝の午前6時、僕は梅沢海岸に立っていた。それは他でもないヒラメを釣る為だ。竿はメジャークラフトのサーフロッド10.6フィートで少し長めだ。30グラムのジグヘッドにピンク色のシャットテールワームをつけて海に向かってキャストする。日の出間近で薄暗いが美しい。キャストしてからは特にアクションをつけることなくただ巻き狙う。おっとリールを紹介し忘れていたな。リールはシマノのナスキー4000番だ。ショアジグ用として購入したがこれが6000円と学生の僕からしたら安くありがたく、使い勝手もよくいいリールである。6時に釣りを開始して2時間経過してきた。何も釣れずにヒットもない。しかし釣りのいいところは海を目の前にして心が洗われることであり、べつに釣れなくても楽しい。しかし釣れた方が100倍楽しいので釣りたい。ランガンしすぎて足が疲れてきた。相も変わらずキャストしてただ巻き。ん？根がかりか？サーフで根がかりなんて滅多にない。合わせてみる。お！？引く引く！！魚や！重い！すごく重い！でもあまり引かない。リールを巻きまくる。魚が上がってきた。ヒラメだ！デカイ。45センチの立派なヒラメが釣れた。これだから釣りはやめられない。今日も最高の日だ。血抜きをして念のため持ってきた大き目のクーラーボックスに入れる。大き目を持ってきて正解だった。尾びれを折ってちょうどだった。その後一時間ほど釣りをしたが何も釣れない。だが大満足だった。重たいクーラーボックスをもって帰りの電車に乗る。重くて少し魚くさくて恥かしかったがこの程度の弊害すら幸福に感じた。

家に帰宅してクーラーボックスを置いたとたんに疲れが一気に襲ってきた。

急いでシャワーに入り、ベットに横たわると一瞬で眠りに落ちた。起きたら夕方だった。クーラーボックスを開けるとまだ氷が残っていてヒラメも冷えていて一安心。Youtubeを見ながら5枚おろしを試してみるがなかなかうまく捌けない。だが4,5枚目には慣れて最初の方よりはうまくいった。今日は1枚を刺身にして食べよう。刺身に切り分けさらに盛り付ける。エンガワは3切ほど取れた。刺身を醤油につけて食べてみると、うまい！油が乗っていて上品な白身だ。エンガワもうまかった。油が多く歯ごたえがあった。釣りは食べるところまで楽しめるからいい。もう一度言うが最高の一日だ！

うちの三年がぴえん

造園科学科 藤田 真義

(神奈川 私立関東学院高等学校)

パソコンに向かいキーボードに手を置き、今躍進を書く。何について書こうか。2022年8月5日に私は二十歳を迎えた。せっかくだから節目を迎えて変わったことについてでも書こうか、いやかけることなんて飲みの失敗くらいだ。このコロナ禍で何度も飲みに行っていることについて書くななんて間違っている。さすがに怒られそうだし、やめておこう。

何について書こうか。この輝かしい大学生活について書こうか。学科での外ではほとんど関わりを持たない友達との話か、それともその中の数人の仲の良い友達に絞った話か、はたまた高校の同期と遊んでいる話か、いや大学に入ったら自動的に彼女ができると思っていた可愛い時期の話か。自分で書いていて涙が出てきた。やめよう。

そうだと部活で書いている文章なのだから最近の部活事情について書いておこう。夏のリーグが終わり、三年の代に切り替わった。今の三年は二人しかいない何故だろう。先輩たちは昔三年の女子の人数の少なさを笑っていたがまさか自分たちが笑われることになるとは夢にも思わなかっただろう。そのたった二人の先輩たちはどうにも仲が悪そうだし。我々2年も大概だが二人でそれは良くないと思う。副将は主将に対して劣等感を持ち、主将はそれを居心地悪そうにしている。ただこれは正直二人の関係だからどうでもいいし、側から見ているとネタになる。この代の良くないのは基本的に面白くないということだ。なんならやめていった人たちの方が笑いを作るのが上手だった。そんな中でもうまく立ち回る我々後輩をもっと大事にしてほしい。特にうちの主務はすごい。どんなに雑なボケに対してもしっかりと処理してくれる。そんな普段から過重労働を強いられているのにさらに主務の仕事もあるなんて可哀想だ、オーバーワークだ。

少し話が逸れてしまった。つまり私が言いたいのは今の代は笑いが弱いということだ。代が変わるまでは現主将のことを尊敬していた。しかし関係が深くなってくると段々とボロが出てきてしまった。副将は元々尊敬していなかったのでギャップがないが主将はかなりのギャップだ。ギャップ萌えという言葉があるがあれは嘘だ。男同士で冷めるのだから女の子の気持ちを考えると目も当てられない。これはモテんわ。これ以上は私のモテなさを追求されそうなのでやめておこう。

大学生活の半分（2年間）の振り返り

地域創成科学科 丸山 昌倅

（長野 県立東京都市大学塩尻高等学校）

長野県から東京の大学に進学する為に移り住み、もうすぐで2年経とうとしている。

私は大学1年の4月ころからまいばすけっとで人生初めてアルバイトをしている。主に部活があるので深夜にシフトを週に2日、最近は遊びすぎて本当にお金がないのでできる限り働いて週4日入ることもある。この躍進を書いている11月28日（月曜日）も自分は深夜のバイトが21時から入っているのだが19時になって「なんか忘れてない？」と思い急いで書き出している。これからご飯も作り8時30分頃に出ないといけないのに本当にヤバい。このままではいつも通りまいばすけっとに行くために間にある農大通りを全力疾走しなければならなくなる。結構恥ずかしいし疲れるし間に合わせたい。

今年は大学二年生になると同時に20歳になる年頃である。振り返りこの2年間で結局彼女が出来ず20年間彼女ができなかったり変わらないこともあったが変わったこともあった。最近朝が起きれなくなった。自分の学科が1限が週4日あるからという理由もあるが一年の頃はほとんど部活でも、学校でも遅刻しなかったのだが毎回遅刻してしまう。起きると授業が始まっている。また大学1年の頃は朝5時に寝ることもあったが現在は1時ごろには寝るようになった。早寝遅起きになった。

最近冬で部活が少なくなったこともあるが体も重くなり早寝遅起きになったり歳を感じている。今はお菓子を食べないようにして食事制限をしている。大学3年になったら痩せたい。

また大学二年生に入り3年生になると就活があるために色々な経験にお金を使いたいと思い大好きなゲームやポケモンカードゲームのカードを集めるためにボックスを買うことをやめて旅行などにお金を使っている。

今年は大阪と白浜、兵庫や四国に行ったりディズニーシー・ランド・USJに

行けたりと充実出来た。またテニスの全日本選手権や友達から招待を受けて楽天オープンのプレミアム席で生のキリオスを観戦したりと中々出来ない経験も出来た。色々しすぎて前期2つも必修を落としたが悔いはない。

後期こそはしっかりと単位を取りたい。

来年は就活もしないといけないので残りの大学二年生が悔いが残らないようにしたい。もうすぐ躍進が書き終わるが只今19時35分。

何とか間に合いそうである。

最後に大学の半分(2年間)が経つが今のところとても充実した生活をおくれている。来年の目標はテニスが強くなりたいとかいろいろあるがとりあえずは大学3年生となり研究室が始まったり、就活が始まるわけだが変わらず充実した日々を送りたい。

一年生

サイコロの1が赤いのは日本だけらしい。

食品安全健康学科 青木 康登
(埼玉 私立川越東高等学校)

こんにちは。わたしは、農大硬式庭球部に入部して心の底から良かったと思っています。何を記せば良いか分からないのでとりあえず自分の話でもしたいと思います。いたいとか思わないでください。私は幼いころからテニスを始め、試合で勝てるようになってきたことに楽しさを覚え、生活のほとんどをテニスに捧げていました。その甲斐もあって、栃木県ではそこそこ勝ち進むことができていました。高校では地元から離れた埼玉の高校に進学しました。この高校3年間はとてつもなく大変だったので、割愛しますね。ものすごく強くなれたわけではなかったし、もうテニスを本気でやるつもりはなかったのもので、推薦ではなく一般で大学に進学することを決めました。受験の話だけすると、7月の関東ジュニアを終え、8月から猛勉強に取り組みました。モチベーションを保つのがきつかったし、皆受験を終えてるところ自分だけ勉強をしていることも辛かったです。ですが結果としてとりあえずB日程で合格できたので良かったです。とりあえず大変な事尽くめの3年間だったんですよ。農大に、テニス部には入らないと決心したまま入学し、親にもそう言い放って東京に行きました。色々なサークルにも足を運びましたが、私は部活のノリで生きてきたので、あんまり楽しめなかったです。

そのままダラダラ生活していたある日、地元に戻ってテニスの練習のお手伝いをする事になりました。その時に私は、たくさんの方からお褒めの言葉を

いただき、応援の言葉もいただきました。その時私はもっとテニスを通してたくさんの方の助けになりたいと感じるようになりました。テニス部の主将さん含めメンバーの方に勧誘してもらったのもあり、テニス部に入部しました。私が遅れて入部することに嫌な顔を見せず、受け入れてくれたメンバーの皆様には感謝しています。それから私は改めて部活動の素晴らしさを実感しました。高校の部活動とは全く違い、学生だけで話し合っただけの方針や練習メニューを決めたり、メンバー争いによって生じるギスギスした空気感が全くなく、顧問も必要最低限のことだけしか関与しないことに感動しました。顧問が何もしないということではありません。なにより部活動を通して、苦楽を共にできる先輩方、同期と出会えたことが本当に幸せです。家族の皆も私がテニスを続けることを喜んでくれたし、応援してくれているので、もっと強くなって家族だけでなく地元の方にも良い報告がしたいです。これから農大硬式庭球部でさまざまな事を学び、思い出を作っていく、プレーで皆さんを引っ張っていきたくたいです。意外と書き始めたら、一ページ埋まりましたね。読んだ人もまじで面白くないと感じていると思うので、来年はもう少し面白い作文を作ることに務めてまいります。

入部して約半年

森林総合科学科 須田 橘 平
(埼玉 県立与野高等学校)

私は、農大テニス部に入部して心身共に成長できたと感じている。

心の面では夏のリーグ期間での活動が印象に残っている。夏のリーグ期間での1年の仕事は大変でミスもたくさんしたが、それを乗り越え達成感と自信がついた。リーグ戦での宣誓で対戦相手の学校名を忘れたことや、持ち物を忘れてきたときは、ミスをしてしまう自分が本当に嫌いだった。そんな時に、先輩方が前向きな言葉で励ましてくださり次も頑張ろうと思えた。そんな先輩方のようになりたいと、尊敬することができた。自分も来年には後輩ができるため、先輩方の尊敬できる所を自分でも実践していこうと思った。

身の部分では、自分のテニス力の向上が挙げられる。入部した当初のプレーと現在のプレーとを比べるとだいぶ成長したと感じた。大学テニスは高校の時より球の質が高く、より素早い動きが必要になり、最初は先輩とラリーができなかった。日々練習を重ねたことで、徐々に良い球が打てるようになりプレーの質が上がった。部の練習では先輩方に指導して頂くことが多く、日々成長することができた。

これからの目標としては、今年の夏のリーグでレギュラーとして部に貢献す

ることです。自分のテニスのレベルは少しずつ上がってきているので、自分より強い先輩方を一人ずつ倒して目標を達成していきたい。

躍進

バイオサイエンス学科 シャイエン チャン カイ イー
(シンガポール St. Anthony's Canossian Secondary School)

私なぜ日本に留学しましたか。私が日本への留学を選んだ理由のひとつは、他の人とは違うことをしたかったからです。オーストラリアやイギリス、アメリカといった一般的な留学先ではなく、私は日本を選びました。日本に来たばっかり時、日本語はあまり分かりませんでした。2年前と比べると、たくさん上達したと思っています。大学の授業が全部日本語で難しいと思いますが、少しでも分かるようになったと思います。

また、私は内向的な性格なので、学校が始まる前は友達ができるかどうか、かなり心配で怖かったです。しかし、今思えば、それは無駄な心配でした。クラスメートがあつという間に見知らぬ人から友達になったことに感謝しています。長い間、家族と離れていることは大変なことですが、出会った人たちのおかげで、楽しく過ごすことができました。家族の支えがあつてこそ、今があるのだと思います。最近アルバイトを始めたので、ここでもっと多くの人と出会い、友達を増やしたいと思っています。忙しくなりますが、テニスにも頑張ります。

私がテニスクラブに入ろうと思ったのは、スポーツを続けたいと思ったからです。シンガポールでレジャースポーツとしてテニスを始めましたが、とても楽しかったです。入学後、私は日本の部活動に対する認識が誤っていたことに気づきました。もちろん、勝ちたい、上位に入りたいという気持ちは同じです。しかし、文化は大きく異なると認められます。

最初は大変で、なぜそのようなことをするのかよくわからなかったのですが、何とかコツをつかむことができました。まだまだ改善しなければならないことがたくさんあります。テニスの技術や、メンバーとしてクラブに貢献するためにやるべきことは、まだまだたくさんあると思います。

シンガポールでは、陸上でのスポーツはあまりせず、水上でのスポーツを多くしていました。シンガポールはいつも暑いのですが、常に水に触れているため、体温を冷やすことができました。でも、テニスは別です。夏場の練習はかなり苦戦しましたと思います。慣れない夏の暑さの中での長時間の練習で、何度か体を壊してしまいました。季節の変化に対応できるようになることも、私の課題です。これからも練習や仕事を頑張るために、健康管理には気をつけた

いです。

今年は夏の大会に出場しませんでした。先輩方のプレーを見て、多くのことを学びました。テニスの目標は、上達して大会に出られるようになることです。

四年生

集大成

生物資源開発学科 稲荷 碩竜
(愛媛 県立伊予高等学校)

ついに最後の躍進を書く時がやってきました。1年次から卒部するまで様々なことこの農大庭球部で学び、経験し、多くの方と出会い、4年間という長い時間を共に過ごせたことが今後の私の人生においてより良いものになったと思う。

私がやはりこの硬式庭球部でまず思い出される学年は1年次である。1年次私は部内で一番下手で練習メニューをまともにこなすこともできず、先輩方の求める仕事を全然できなくて、チームの足を引っ張り続けてしまった。日々が辛くて、辞めることもふとした時に考えていたのが正直な所である。そんな中でも同期が、私のミスカバーしてくれ、時には叱咤激励をしてくれ、また誰一人として辞めることなく必死に頑張っていたおかげで、私も踏ん張ることができた。同期には感謝の念で一杯である。

2年次は1年次の春休みごろから9月10月あたりまでコロナの影響でほぼ全く練習ができなかった。学校の授業もzoomやオンデマンド授業になり、校舎に入ったのは秋か冬ごろだった。この年部活で驚いたのは1年生がトータル10人も入った事だ。流石に自分達の代の倍の人数は驚いた。練習終わりの集合の時自分の目の前に沢山の後輩が並んでいて毎回緊張していたのはここだけの話だ。

3年次はテニスの技術が進歩した年だと思う。授業も少なくなり始め、練習に時間を多くかけることが出来たからだと思う。また、三年生になった事で自分で練習メニューを考えることができるようになった事も大きな要因だと思う。しかし、レギュラーには届かなかった。

4年次はテニスどころでは無く就職活動が忙しく部活にあまり参加することが出来なかった。リーグメンバーにも入ることができなかった。そのまま公式戦では一勝も出来ず終わった。しかし、卒部した後の秋のリーグメンバーが足

りないと言うことで急遽参加した。ダブルスに出場し、団体スコア 2-2 と自分の試合で団体の勝敗が懸かった試合で勝つことができた。嬉しい勝利だった。

この4年間で心技体全てを向上させることができ、かけがえの無い仲間も出来た。私は生粋のテニス好きなので社会人になっても続けるだろう。

改めて4年間を振り返ってみて思う事は大変だったけど最後までやり続けて良かったという事である。この先の人生も農大庭球部の卒部生であるという自覚と責任を持って、頑張っていきたい。

必勝法

生産環境工学科 大和田 駿
(埼玉 私立埼玉平成高等学校)

去年躍進を書いてから一年経ちました。今年の一年は短いようで長い苦しい一年でした。大きな成果としては、東京都庁の内定をもぎ取ったことです。偏差値 43 の高校から公募推薦で東京農業大学に入学し今までろくに勉強などしたことがない私がなぜ筆記試験、面接試験を通過し合格することができたのか？必勝法をここに残したいと思う。東京都庁志望、公務員志望の後輩の参考になったら幸いです。

私が公務員試験を始めたのは、2年生の3月ごろからだ。本気で公務員試験に臨むと決めている人はこのぐらいから勉強を始めている。公務試験には、さまざまな科目があり、数的処理、文章理解、社会科学、自然科学などがある。しかし、これらすべて勉強するのは効率が悪い、当たり前ではあるが出題頻度の高い科目から勉強する。最優先科目は、数的処理、文章理解である。その後、自分の得意不得意に合わせて、社会科学などを勉強していき、テキストは最低でも2周行う。時間に余裕があれば3周行えば合格に近づくことができる。

次に、専門科目である。専門科目も同様出題頻度の高い科目から勉強していく。専門科目は、点数配分が高いため重点的に勉強しなければならない。いくら、教養科目で点が取れても専門科目で足切りにかかってしまったら意味がない。なので、専門科目はテキストを最低でも3周することが必要である。筆記試験直前は、毎日8時間から調子のいい日は10時間勉強していた。

最後に、面接試験の必勝法である。公務員試験は、筆記試験が重要と思われがちであるが、受験した感想としては人柄重視の傾向にあり面接の方が重要であると思う。面接の練習は大体半年前ぐらいから開始するのがベストである。自己分析や面接シートに意外と時間がかかるためだ。私は、東京農業大学のキャリアセンター、新宿にある新卒ハローワークを利用し、面接試験前は週に4

回練習をしていた。面接は、人との会話であり、話しやすい人、話しにくい人など様々である。しっかりとした受け答えをするためには、経験に勝るものはない。

最後に、これまで公務員試験の必勝法を書いてきたが、筆記試験は過去問を解けば解くほぼ、あ！この問題見たことがある！と気づくと思う。本番そうなれば、勝ちだ。まずは、見たことが問題を減らしていくのがコツである。面接の本番は、緊張で頭が回らなくなるので、どんな状況でもしっかりとした受け答えすることが重要である。公務員試験は一人ではなく、周りの人とやることでモチベーション確保にも繋がり、有効的である。もう勉強方法の大枠は分かったと思う。詳しいことはYouTubeやインターネットにたくさん載っているののでそれを閲覧すること。公務員になると決めたら最後まで貫き通すこれが一番大切である。

公務員を目指す後輩よ。幸運を祈る。

恵まれた4年間

分子微生物学科 小川 直輝
(東京 都立小山台高等学校)

あっという間の4年間でした。思い返すとつらい思い出ばかりが出てきますが、だからこそ乗り越え成長できたり、良いことが倍嬉しかったりしました。私が4年間の部活動を通じて感じたのは本当に人に恵まれたなということです。

先輩方からはプレーや練習に取り組む姿勢で後輩を引っ張っていく先輩としての姿勢を学びました。部活動を続ける中で、たくさん注意なども受けましたが言葉だけでなく、後ろ姿で魅せる先輩方の姿に憧れました。自分も後ろ姿で引っ張っていけるような先輩になりたいと強く思いました。

後輩からはたくさん刺激を受けました。後輩にも恐ろしくテニスが上手い人がいましたが、特にBチームと一緒に練習した後輩達とは切磋琢磨し合いました。後輩たちが上手くなっていくのを感じて抜かされないように負けじと練習したり、就活中に気分が落ち込んでいるとき、後輩たちの元気に背中を押されて頑張ろうと思えました。先輩後輩間の距離が近く、部活外でも楽しい時間を過ごすことができました。来年から茨城県にいたので気が向いたら遊びに来てください。

そして同期。本当にこの5人と一緒に引退を迎えられて良かったと思います。連帯の罰で5人並んで体幹したのをよく覚えています。すごい仲が良かった

たかと言われたら分からないけれど、行事や仕事、リーグ戦を迎えた時の一体感というか、みんなで乗り切ろうという熱い気持ちがありました。同期も頑張っているから頑張ろう。そう思えました。色々なことを一緒に乗り越えられたことを誇りに思います。最高の同期です。

ダブルスでペアを組んでくれた稲荷。Bチームで常に一緒にテニスしてました。なかなか良い結果が出なかったけれど、ペアとして一緒にテニスをプレー出来て良かったです。特に最後の秋季リーグでチームの勝ち負けを決める試合で勝てたのは本当に嬉しかった。最高の思い出です。(次週の試合はボコボコにされたね。)

また、監督、部長、OBの方々には練習できる環境を整えていただき、たくさんの応援をいただきました。特にコロナ禍での練習は学内で行えず、厳しい時期が続きました。皆様の支えがありましたおかげで部活動が続けることができました。この場をお借りして感謝申し上げます。

本当にたくさんの仲間、支えてくださった方々のおかげで充実した4年間を過ごすことができました。出会ったすべての人たちに感謝です。社会に出ても周りの人たちへの感謝を忘れず、一步一步頑張っていきたいと思います。

終わりとは

分子生命化学科 片野 航
(埼玉 私立城北埼玉高等学校)

今年も躍進の季節がやってきました。気付けばこれが4度目で最後の躍進となります。時間が経つのは早いですね。最近特に時間の流れが早く、カップ麺を待つ3分間でさえあつという間に感じます。引退してからというもの深夜に夜食を食べる頻度が増えてきています。引退前は、摂取したカロリーは運動によって燃焼されていました。しかし、引退した今はそのカロリーはどこに行っているのでしょうか。言わずもがなですね。危機感を感じております。

今年も去年、一昨年引き続きコロナは収まっておらず、リーグ戦の開催が危ぶまれていましたが、感染対策等ありながらも無事行うことができました。私はシングルスに出場し、相手校のエースと対戦しました。皆非常に強く惨敗で、不甲斐ない結果となってしまいましたが、この貴重な経験を忘れずに生きてゆきたいと思います。全体の結果は、4部降格となってしまい、3部を死守することはできませんでした。しかし、部員一丸となって戦った良いリーグ戦だったと思います。

ここからは、私の引退後のテニスについて書きたいと思います。まずバックハンドについてです。私はバックハンドを得意としていたのですが、ある時3

年生の林君に、「片野さんバックハンド前の方が良かったんじゃないですか〜」などと言われてしまいました。腹立たしいものです。しかし私も多少の自覚はありました。そこで、いっそのこと片手バックハンドに変えようかと思い、チャレンジしてみました。すると、最初から結構上手く打てたのです。今まで自分が持っていなかった感覚を開拓するのはとても楽しく、しばらく片手で打っていました。途中で両手の感覚がなくなるんじゃないかと思い、両手に戻してみました。すると、驚くことに両手バックの威力が格段に増していたのです。これはおそらく、片手バックによって身体を回転させる感覚が身についたものだと考えられます。今私の躍進を読んでいる方で両手バックの調子が悪い方がいれば、ぜひ片手バックを試すのをオススメします。何か得られるものがあるかもしれません。次にフォアハンドについてです。長年苦心していたフォアハンドですが、最近やっと改善の兆しが見え始めました。今まで厚い握りで打っていたのですが、今年の9月に引退したフェデラー選手のような薄い握りに変えてみました。最初はボールに回転があまりかからず、馬の方へ行くこともありましたが、徐々に良くなってきたので、今後も練習を続け安定感を高めたいと思います。フォアハンドは私の人生において1番のライバルなので必ず攻略してみせます。

現在の男子農大硬式庭球部は、4年生が引退し、人数が大分少なくなっていました。でもある時、自主練を終えてコート脇のベンチに座って練習を眺めていると以前Bチームで練習していたメンバーのミスが少なくなり、確実に上達していました。人数が少なくなり、合同練習となることで、下が上に食らい付いていってるんだと思います。人数が少ないと何かと苦労することもあるとは思いますが、確か農大が2部にいる時も人数は少なかつたような気がするのです。後輩達には自信を持って3部昇格に向けて頑張ってください。

私自身引退はしましたが、研究室の合間にたまに自主練をしているせいか正直まだ実感が湧きません。空き時間に好きにテニスができる今の環境は最高です。部活からの引退を実感するのは大学を卒業するときでしょう。そして本当の意味でテニスから引退するのは、私がこの世を卒業するときでしょうか。時間にして約42048000分。カップ麺14016000杯分。うん、わかりづらいな…。綺麗に終わるのは、私にはまだ難しいようです。

守破離

国際農業開発学科 松本 健太
(東京 私立成城高等学校)

「あきらめたらそこで試合終了ですよ」この言葉が強く身に染みた1年であ

った。部の降格も部員の退部も何も止められなく、自分の無力さを実感した。

主務という役職の私が1年の時に感じたチーム全体として試合が少なくたくさん場数を踏みたいと思っていた。なので、今年は30回練習試合や対抗戦を組んだ。土曜日にも試合が入りバイトや他の試合などといい試合に参加しない、途中で帰るなどする部員が多かったため人数を集めるのにとっても苦労した。優先順位は上から授業、部活、アルバイトなどの活動となるのは部活の雰囲気から感じて欲しかったが、私たち上級学年が部活優先という当たり前だったことを伝えきれなかったのはとても悔いが残る。他校からの対抗戦の話を通することは簡単だが、受けた話は出来る限り受けたいというスタンスで主務をしていた。よく考えてほしい、申請の書類を作ることや、連絡を取るのが面倒であるからと言って試合のお誘いを一蹴してしまったら「農大はあまり対外試合をしない」というイメージが付き、お誘いを貰えることが減ってしまい対外試合をしたかったときに良い対戦校が見つからないことが起きてしまう。自ら仕事を増やしてしまったが、少しでも1試合1試合が部員の為になったのであれば良かったと思う。私もシングルスは4割5分ほど勝ちを上げることが出来、勝つ楽しさを味わえたと思う。また3年の8月から就活を少しずつしていたので2月に内定を貰い、就活が落ち着いた春休みは週3で部活に顔を出すことが出来た。2月は面接がたてこみ、部活にほとんど出られなかったが3年が誰もいなか部活に出てくれた副主将2人には感謝したい。就活で誰もいない中、神戸大学の遠征を受け、連絡を取るのがとても大変であった。まだ本命の会社の面接がある中、スーツで試合に顔を出し、次の日試合にも出たが、全く試合にならず負けてしまい、情けない姿を見せたと反省している。特に3月はコロナの状況も悪く、感染者が出てしまったら開催できないという中、参加した1年生2年生はコロナにならず元気に試合に参加してくれた。これは本当に部員全員に感謝したい。ゴールデンウィークの5戦はハードな試合が多かった、気温も高くまた関東学院アウェイもあり選手、サポートともに疲労があったと思うが勝ち切る事が出来、最高の1週間であった。私は麗澤と関学は負けてしまったが順天、東洋との試合で勝つことが出来、テニスの仕上がりは今思うとそこがピークであった。また7回も練習試合を組んでくれた慶應大学テニス部にはとても感謝している。お互い名前を覚えるほど戦い、いつも農大が負け越し、それでもあの蝮谷のコートでプレーをするチャンスをくれて、本当にありがとう。部員たちには農大が勝ち越せるようになるまで慶應にはチャレンジし続けて欲しい。もう杏里は慶應にはいないが。そして自由に対抗戦を組むことを許してくれた主将には感謝している。対外試合に関しては理想以上に開催できた。代替わりをして4人、新入部員は3人失った。ついて行きたい背中になれなかったのだととても残念に思う。奢りだけではなく、私の体験や思

いも伝えていた部員もいたのでその部員たちが辞めて行って、むなしい気持ちでいっぱいになり後輩への思いが薄れて行ってしまった。心のどこかで部活を諦めてしまったのかもしれない。最終的に6月末に就活が終わり、リーグのメンバー争いが始まろうとした矢先2人辞め、また1人辞め良い雰囲気でも部活としての夏の練習が出来なかった。No2の単複要員を失ったのは大きく、私にもリーグ出場のチャンスが来た。まさかの出来事で、あまりテニスを仕上げる事が出来なく、リーグ戦3試合で1セットも取る事が出来なかった。そして入れ替え戦での降格。2勝してくれた石原、針生、最後まで熱い試合をしてくれた中村、青木。試合を託して心から良かったと思えた。主務として日程、会場のことをもっと吟味すべきだったと思う。1年生の頃はコロナが無く、辛くも楽しい思い出がたくさんあるそんな部活動であった。そんな部活をもう一度作りたいと思ったが、現実には厳しく試合の開催が難しかった2年間という時間には抗えず、手ごたえのある成果は出せなかった。4部降格という最悪な形で代替わりをしてしまい申し訳ないが、楽しい思い出でもたくさん作れた。杏里との出会いや杏里との出会いや杏里との出会いなどがある。というのは冗談、でもないがみんな泊まったアパホテル、快勝した対抗戦、みんなと行く1回1回のご飯(奢る側)。この思い出を胸に新天地でも頑張りたいと思う。

実家も農大に近いのでふらっとコートに寄ることがあると思う。5年10年が経ち、代被りのしていない後輩たちになっても、元気に挨拶をしてくれるそんな後輩を育てて欲しい。変わっていくものは変え、守るべきものは守る。何を変え、何を守るのか、正解は1つではないが正解に近い答えを見つけて欲しい。そうすれば10月に愛媛にいることになるだろう。行けよ！王座！あきらめたらそこで試合終了だよ！

最後に語ろう 2022 字

栄養科学科 清瀬 夏美
(千葉 県立国府台高等学校)

11月23日、最後の躍進を書く。今日は朝から夜行バスのサイトをみた。来週末、田邊と永田と三重に行くのだ。最高の同期と卒業旅行ってやつ、楽しいといいな。LINEを開くと益子(3年)とのトーク。そろそろ彼氏になりそうな男のビジュが良すぎるらしい。羨ましい。昨日は青木(1年)に声をかけられた。イヤフォンをつけていて何回呼びかけても無反応だったらしい。それでも諦めない健気さに感動。そうだ稲荷(4年)にも会った。5限終わり経堂までの道で。ラケットを持っていた、今から片野(4年)と打つらしい。相変わらずの愛しきテニスバカだ。以上、部活で出会った愉快的な仲間たちとの最近である。

部活から離れて2ヶ月半、自分が部活生だったと忘れるくらいには忙しくしている。私の場合は部活の穴がすっぽり空くということにはなかった。コロナ等で例年より活動が少なかったものの、管理栄養士課程と教職と掛け持ちバイトと恋愛(?)をしながら部活をしていた自分は一生褒め続けたい。と未だに自惚れている。私の部活へのスタンスは「テニスを楽しめるくらい上手くなる」だった。入部した時から引退までそれは変わらなかった。でも私が入ったのは体育会系。「試合に勝つために上手くなる」の周りとはズレがあった。テニスには真剣に取り組んだ。でも勝ちにはこだわらなかった。それが理由で4年の夏はかなりぶつかった。仕方ないことだが、勝つための棄権もオーダー順によって外されるのも理解できなかった。リーグが嫌いでした。部活ではなくスクールに入ればよかったのだと今でも考える。

そんな私だったが、4年の春休みから引退までの半年が、1番テニスが上達した。それは他の6人のおかげである。まずは永田と田邊。彼女たちに対して私は「舐められたくない」という思いが強くあった。練習の時も2人よりフォルトしないネットしないはかなり意識した。3ゲームはとれるって本気で思っていたからOB会で宣戦布告した。結果としては田邊からはとれた。永田からは2ゲームとれた。達成はできなかった。彼女たちから見た私は、「負けはしない相手」のままだったろう。それでも、2人への反抗心を闘争心に変換してテニスに集中できたのはよかった。次にシャイエ。楽しそうにテニスをやるシャイエの姿は、まったくできなかったテニスを今楽しめているという喜びを再認識させてくれた。シャイエとのミニラリーも奇想天外で楽しかった。次に益子と千歳。2人は方向性の違う4年の力をいかに伸ばすか持ち上げるかをもとにすごく考えてくれたと思う。私に対しては、テニスを楽しみたいという価値観を理解した上で勝つための指導や助言をしてくれた。永田と田邊との勝敗は逐一報告して褒めてもらっていた。部内戦で田邊に勝ったら千歳と焼肉だったのにな、残念。(どっちが先輩だよって話。)最後に加藤。同じ学科で共に初心者、ライバルであり同志だった。加藤との試合が部活で1番楽しくて、加藤といい試合をすることが1番のモチベーションだった。直接対決は勝ち越し。2週間前も2-0だったので、現在進行形である。でもリーグ戦績でいったら、私0勝、加藤1勝。「清瀬さん、私は勝ちにこだわってこの夏を頑張りました。」って言われているような長いラリーしかない粘り勝ち試合だった。彼女は来年何勝するのだろうか。福岡からだろうと見に行くつもりだ。

最後の夏もしんどかった。1年の夏は鬱だった。4年間で旅行は3回断った。もっとバイトしてもっと遊びたかった。犠牲が多いと感じた部活だった。でも、憎めきれない。楽しいことも沢山あった。最初に述べた愉快的仲間たちと濃い思い出を作れた。部活帰りのラーメンも、先輩のお金で食べる焼肉も、

飲み会もオールカラオケも最高だった。そして何より、見ているだけだったテニスができるようになったのが嬉しかった。引退した今も高校の時の部員や加藤とラリーをしている。高校の時に思っていた「大学では絶対テニスをする」を実現できた。せっかくできるようになった生涯スポーツ、一生楽しもうと思う。よし、もう書けない！これにて終了。

日常

醸造科学科 田邊 ころろ

(兵庫 国立神戸大学附属中等教育学校)

4回目。すでにこの躍進を4回も書いていることに驚きが隠せない。この躍進は、毎日研究室へ行って乳酸菌を培養して、色々な測定をして卒論を書いている最中のものである。ちょうど今はスピッツを聴きながらこの躍進を書いている。音楽は良いね。

2022年の思い出を少しだけ。

まずはUNISON SQUARE GARDENのライブにたくさん行けたことだ。今年だけで5回の公演に行けた。大好きな音楽を生音で聴けるっていうのはいい。部活だろうがなんだろうが、推せるときに推せという言葉は正しいと思う。ユニゾン以外のアーティストのライブもたくさん行けた。最高。

次に居酒屋のアルバイトを始めたことだ。客として行った居酒屋だったが、アルバイトにスカウトされ今に至る。好きな日本酒に囲まれてお客さんともお話しして、すごく良い経験をさせてもらった。

思い出はここら辺にしといて、部活の話に移ろう。この4年間、この部活からたくさんの学びをもらった。とても有意義な学びだったと引退した今でも思う。

まずは同期。永田、清瀬本当にありがとう。

永田は私がテニス部の見学をしにきたときに一番初めに会った人。彼女は当時髪が長くて毛先だけ緑色だった(割と怖かった)。そして、物事をちゃんと見てしっかりと言葉で伝えてくれる人。だんだん「あ、この子ちょっと抜けているぞ？」というのが分かってきたけど、やる時はやる芯が通った同期の1人。チームを引っ張ってくれてありがとう。

清瀬は大学からテニスを始めたと聞いてとても驚いた。その決断力が賞賛レベル。しかも栄養科学科。どれだけ多忙やねん、忙しすぎるやろ！と思っておりまして、、。清瀬は言いたいことを全部言うタイプの人(遠慮という言葉を知らない?)。4年生の夏休み中の清瀬はやる気に波があったけれど、私も私で「やる気のない清瀬にゲームを取らせてたまるか」という気持ちでテニスに向

き合うことができた。でも清瀬のいる部活はずっとみんなが笑顔だった。素敵な部活にしてくれた同期の1人。4年間の成長を間近で見させてくれてありがとう。

同期仲が悪い？よくそう言われるけどそんなことない。ちゃんとそれぞれ3人が意思を持っていて、それを意見として口に出して伝えているだけ。私の中高の部活の同期はそれぞれの意見を言えなかった。言葉じゃなくて、態度や陰での愚痴でしか示してくれなかった。それに比べてこの大学4年間の部活では自然に言葉にすることができた。2人がどう思っているか分からないけど私はちゃんと言うよ、永田と清瀬が同期で良かった。本当にありがとう。

テニス面も少しだけ。私がこのテニス部に入部した理由は「テニスサークルよりテニスがしたいから」である。だから、正直上手くなったとか戦績がどうかは言うことはできない。ただ、永田と良いラリーができたり、自分の得意なコースが見つかったりと4年前に比べたら少しは上達したのかもしれない。試合にもたくさん出させてもらった。正直試合は好きじゃない。特にダブルスはペアの足を引っ張ってしまうから苦手だった。でも、3年生の秋からダブルスを少しずつ組ませてもらって、リーグ戦では永田と組んでダブルスが「楽しい」と思うことができた。勝ち星も取れてとても嬉しかった。苦手だったダブルスが少しずつできるようになったのは私の4年間の集大成とも言えるかもしれない。

この4年間、“通常”の硬式庭球部ではなかった。2年生の前期は全て自宅待機。部活が再開しても大学内でできず、用賀のテニスコートを借りて行う始末。2、3年のリーグ戦は中止。何をすることも大学に申請。部員に体調不良があれば部活停止。合宿なんて大学1年生の時に行った以来止まっている。もう一度行きたかったな、伊豆稲取。部活にはたくさんの思い出があるけれど、やっぱり消化不良な部分もたくさんある。

まだまだ4年間のことを書くには短すぎるが最後に後輩たちへ。私たちについてきてくれてありがとう。部活を辞めずにいるだけで本当に感謝です！これからも硬式庭球部を盛り上げてほしい。一番重要なのは「楽しむこと」だと思う。伝統、上下関係たくさん縛りはあるけれど、楽しむことが第一です。部活以外にも大学生活を楽しんでほしい。皆さんの活躍をお祈りしています。

昨年度の私の躍進の題名は「美味しい日本酒が飲みたい」だった。今年も、もちろん美味しい日本酒を探し回っている。おすすめの日本酒があったら教えてください。よろしく願いいたします。

完結

分子生命化学科 永田 夏帆

(東京 私立山脇学園高等学校)

最後の躍進。濃い4年間を振り返りながら少しでも響くものを書けたらと思います。

まず、続けてよかった。本当に最後まで頑張った良かったと心から言えること。そして、それは幸せだと言うこと。関わってくれた人全員にありがとうだし、特に118期の6人には感謝してる。

たくさん感じたこと、思ったことは沢山あるが大部分は忘れてしまった。リーグが楽しかった。ぶつかり合って本音を聴けたこと、同期、後輩の本気の頑張りを見れたこと、一緒に喜べたこと全部嬉しかった楽しかった。部活での4年間、嫌な事、苦しかった事、泣いた事、人一倍あったと思う。だけど、こんな感情に出会えたから、自分にもありがとう。よく頑張ったと褒め称えたい。昨年、散々この”躍進”に不釣り合いな文を書く殴ったが、あれからの1年は私なりに精一杯一生懸命全員で走り切れた事を本当に嬉しく思い、躍進できたと言える。

私なりの主将とは何かを述べおく。チームを牽引する人。それは、プレー然り背中で魅せる振る舞いや部員を鼓舞する言動が大切なのは大前提として、私は指針を決断し伝える人。だと考える。

我が女子118期は、【全員が居心地の良いと思える部活を作る事】を目標として掲げこの目的は4部昇格であった。“目標”“目的”は誰もが迷子にならないように必ず掲げるべきだ。部活の意義、何のために所属しているか、そこで自分は何を得たいのか誰しもきっと理由があるから続けているのだ。しかし、その気持ちは時に見失い全く価値を見出せなくなることがある。だから、近年考える時間が増え辞めていく部員が増えたのだ。しかし、必ず理由はある。自分に正直に内緒で書けばいい。私個人の目標はリーグで全勝する。目的は成功体験が欲しい。最強のトップになりたい。だった。不可能だと思われるかもしれないが、至って真剣だ。私は、羞恥心という感情が人より少し欠落しているため、これくらい公にすることは容易い。しかし、公にしなくていいから今一度考えてみて欲しい。モテたいとか痩せたいとか良い就職先に就きたいだとかそれでいい。そして、迷わず真っ直ぐ自信を持って選択をして欲しい。これは、無念にも多くの辞めていく後輩を見てきた私が出した答えです。選択に対して、否定はしないけどせつかく関わられた以上もっと話を聞いてあげられる環境を作りたかった。傲慢だし、私に話したところで解決しないだろうけど、胸が痛かった。終わり！

楽しかった！辛かった！大大大満足な経験をありがとうございました。

最高の同期、最高の後輩に出会えて、一緒の時間を過ごせて嬉しかったです。

OB特別寄稿

ネコを飼う

昭和62年 畜産学科卒 富田 恭正

学生時代から故障しがちで、練習を休むことが多かった。元々下手クソの上、ケガで周囲よりも練習に取り組めない訳だから、当然にレギュラーメンバーなどは夢のまた夢であった。部をクビにしないでくださった先輩には今更ながら感謝申し上げます。とにかく、ある時から個人目標は「練習に休まず参加して卒部すること」となっていた。もちろんチームとして目指す上部リーグ昇格は他人事ではなく、裏方として尽力することに充実感があったが、「練習に休まず参加して卒部すること」という目標は、格好悪くて仲間には言えないものの、劣等部員にとって意義のある設定であった。

最後のリーグ戦に向けた春合宿、リーグ戦とはかけ離れたレベルでありながらも端のコートでスピンスリーブの強化に励んでいた。振り切れるセカンドサーブとして試合で使える上、サービスポイントにつながることも多く、数少ない武器として手応えを感じていた。ただ、続けていると途中から肩に痛みを感じるようになった。それまでの自分であれば間違いなく練習を休んでいただろうが、もう最後だ。その時ばかりは休まなかった。サーブのウォームアップを30球ほど打つと温まってきて、その時だけは痛みが消えた。とにかく自分なりに少しだけ上達して最後の数か月は休まずに練習に参加し、リーグ戦も裏方として精一杯戦い、卒部できた。その後、スピンスリーブはお蔵入りにした。

卒部して30余年、今もスピンスリーブは打てないが、この下手クソはテニスを続けてきた。仲間と和気あいあいというテニスだけでなく、草大会ではあるがトーナメントにエントリーして見ず知らずの老若と真剣勝負をしている。ムキになって勝負すると、また故障する。実はここ数か月、膝を痛めてテニスを休んでいる。結局学生時代から成長していない。ただ、自分の身体と相談してのトレーニングができるようになってきた。2023年に入ってから水泳ができるまでに回復してきた。今年は躍進してやる。

休んでいる間、我が家のネコが慰めてくれる。10年前に一晩庭で泣き続けていた子ネコを妻が助けて家に招き入れた。この10年間、故障によるテニスの長期離脱を2回経験しているが、ネコのおかげでテニスの禁断症状は軽症でありメンタルは維持できている。皆さんもご家族を大切になさってください。

卒部から1年

令和4年 分子微生物学科卒 齊藤 真歩

昨年度、引退をして躍進を書いてから気付けば1年が経っていて、今年も躍進を書かせていただくことになりました。

私は今、食品メーカーで働きながら日々人の健康、スポーツと関わっています。学生時代、スポーツをしていた社員も多く北海道でテニスをしていて農大テニス部の先輩と知り合いだった同期もいます。そんな環境なので会社では体育会を感じる場面も少なくなく、よく学生時代を思い出します。

現役の皆さんは辛いことも多い日々を過ごしていると思います。しかし、大半の人は部活をやっている良かったと思うと思いますし、私もその一人です。今辛くても、こんなにも恵まれた環境で仲間と高め合いながら、集中してテニスをできるのはほとんどの人が今が最後だと思います。辛くても毎回の練習を大切にがむしゃらにテニスをして後悔なく引退できる日を目指してほしいと思います。

そして今年度卒部した4年生、卒部おめでとうございます。一番長く一緒に活動して、頑張っているところを見ていたからこそ笑顔で卒部した後輩を見て安心しました。女子は最後のリーグ戦で全員の成長を見ることができて本当に良かったです。感動させてくれてありがとう。

社会人になって、テニス部で学んだことが力となり毎日元気に働いています。皆さんもこれからもっと広い世界に出て、今よりも苦しいことがあるかもしれませんが、でもきっと、テニス部に学生最後の4年を捧げたみんななら大丈夫。先輩はいつまでも先輩です、現役生も卒部生もいつでも頼ってください。

農友会硬式庭球部を支えてくださっている皆様、今後とも農友会硬式庭球部をよろしく願いいたします。

躍進を書く機会をいただきありがとうございました。

経験

令和4年 分子微生物学科卒 高橋 陽明

第117期硬式庭球部卒部生の高橋陽明と申します。この度は大変恐縮ながら、昨年度卒業生を代表して躍進を投稿させていただきます。

さて、社会人となり早くも一年が経とうとしています。大学通う、部活で練習をする、授業を受ける、テスト勉強をする。こういったことが今ではとても懐かしく、とても昔のこのように感じます。社会の荒波に揉まれながら生活する中で、農大庭球部で過ごした時間で何が得られただろう？と振り返って考えるとやはり『経験』ではないかと思えます。

『経験が得られた』と聞くと何かを努力して達成した経験や物事が上手くいったことが思い浮かぶのでは無いでしょうか？しかし、私は部活動で得た『負けた経験』がとても貴重だと感じています。

朝、目覚ましで起き、電車に乗り、試合会場に向かい、試合に向けてストレッチをし、これから戦う相手選手とサーブ権の選択をします。そして勝ち負けが決まり試合が終わると負けた選手は、勝ち進み次の試合をしている選手を横目に帰らなくてははいけません。この時、テニスはとても残酷なスポーツだと感じます。試合会場まで何時間掛かろうが、試合に向けてどれだけ練習をしようが相手選手よりも弱ければ『負け』という結果を突きつけられます。そしてまた次の試合では勝てるように練習を始めなければなりません。つまり大学時代は試合に出場する度、勝ち進んでもどこかで負け、そこで挫けず次に向けて努力するという日々を繰り返してきたわけです。

社会に出て色々な事を経験する中で、失敗や辛い現実を突きつけられても次に向けて努力する事の重要性を強く感じます。新人として入社し、分からない事しかない環境で自分のミスで先輩社員や上司に迷惑をかけてしまった時、落ち込んでも次の日は前を向いて努力ができる、その力を部活動を通して培えたことは大きな財産だと思っています。今年度のリーグ戦では農大は入れ替え戦で惜しくも敗れ4部降格という結果に終わりました。118期の彼らのリーグの経験は一年生の頃しかなく、後輩たちはリーグの経験が全く無い中で引っ張っていくことはとても大変だったと思います。結果は厳しいものとなりましたがこの経験を乗り越え、彼らがそれぞれの新たな環境で活躍してくれると信じています。また、私自身もまだ社会人として分からないことばかりですが農大庭球部で得た経験を糧に日々練習に打ち込んでいる後輩達に負けないように精進していきたいと思えます。

末筆ながら農友会硬式庭球部の益々のご活躍をお祈り申し上げます。

OB会だより

◎活動報告（令和4年度）

5月29日 春のOB会「OB・OG／現役合同練習会、OB総会」。コロナ禍、学内での飲食を伴う集会在規制されたため、「すずしろ」で行われていた現役との交流会は中止となった。

10月8日 秋のOB会「OB・OG／現役合同練習会、リーグ戦結果報告会、卒部式」。春に続き飲食を伴う集会在規制されたため、「すずしろ」で行われていた現役との交流会は中止となった。

◎ 今年度「OB会」及び「現役強化金」へ下記の方々からご寄付をいただきました。

(令和5年1月31日現在)

杉本 隆重 (第11代部長)	廣瀬 清純 (S32)	水澤 辰夫 (S34)
河端 謙治 (S40)	大矢四十六 (S41)	岡本 俊光 (S42)
荒井 規夫 (S43)	大瀧 晴夫 (S43)	鶴丸 克郎 (S43)
田中 輝明 (S44)	松田 晃 (S44)	大島 肇 (S45)
立花 民雄 (S45)	三浦 晴男 (S45)	渡邊 雅彰 (S48)
阿武 高志 (S49)	杉本 龍彦 (S49)	都地 謙二 (S49)
野田 義真 (S49)	原 宏之 (S49)	松本 透 (S49)
高木 隆雄 (S51)	高木 絵実 (S53)	土生津紀美 (S54)
青木 秀樹 (S56)	相磯 秀昭 (S57)	坂内 晴夫 (S57)
奥田 秀助 (S59)	鈴木 健一 (S59)	保坂大二郎 (S59)
村田 功 (S59)	今泉 俊之 (S61)	佐伯 優 (S61)
小山 純一 (S62)	陰山 明典 (H2)	葛城 武典 (H2)
金子 一樹 (H7)	大麻 穰 (H8)	馬場 伸栄 (H8)
大村 知彰 (H9)	大村 綾香 (H9)	及川 拓郎 (H10)
松尾 圭都 (R2)		

(敬称略)

現役部員の強化はもとより、東京農業大学庭球部の向上・発展のため大切に運用致します。

今後ともOB会活動にご支援・ご協力をいただけましたら幸いに存じます。ありがとうございました。

◎ OB近況 「令和4年度 春及び秋のOB会出欠返信はがきから抜粋」

(敬称略)

廣瀬 清純 (昭和32年卒)

年齢相応ですが元気に過ごしています。週1回のお遊びのテニスをしています。機会をみて会合に出席したいと思っています。(春)

宇野 晃 (昭和40年卒)

久しぶりの開催ですが残念ながら欠席いたします。皆さんに会いたいねエ～。(春)

卒部生のみなさん おめでとうございます。コロナで大変な学生時代でしたが、社会人になってから「良い方へ生かして」下さい。これからはOB会をよろしく。(秋)

河端 謙治 (昭和40年卒)

80歳を過ぎましたが、だましましテニスをやっています。(春)

岡本 俊光 (昭和41年卒)

定年退職になって15年、最年長で三重県の松坂テニスラウンジで週1回テニスを楽しんでいます。(秋)

古市光男 (昭和42年卒)

多少医者通いはしておりますが、何とか元気にしております。地元のテニス同好会に入ってお遊びでコートを走っています。(秋)

荒井 規夫 (昭和43年卒)

皆様によろしくお伝え下さい。(春)

辻川 賢也 (昭和44年卒)

卒後53年、今も週3回程度、老体にムチ打ちながらもテニスを楽しんでいます。いつまで続くことやら！(秋)

松原 三友 (昭和44年卒)

会社、仕事よりも10程のボランティア職に駆けずり回る毎日でOB会に出席出来ず申し訳ございません。(秋)

新田 良雄（昭和 45 年卒）

青森市内の中学生の部活の指導（ソフトテニス）をしています。ここ 3、4 ヶ月コロナのため指導できませんでした。ようやく 4 月に入り中旬ごろから、部活の活動をしています。県チャンピオンの生徒もいますが今中学校の部活動の在り方が大変難しいです。それでも頑張っています。75 歳の体にムチ打って・・・!! 「躍進」ありがとうございます。いつものことですが、全文読ませていただきます。（春、秋）

三浦 晴男（昭和 45 年卒）

この 12 月で 75 歳となりますが元気にしています。（コロナに負けず）（春、秋）

喜多 良和（昭和 46 年卒）

既に 73 歳となり余生を楽しんでいます。遠方にて出席できませんが、皆様の活躍をお祈りしています。お世話様です。（春）

横田 克巳（昭和 48 年卒）

会運営お疲れさま!!（春）

渡辺 利行（昭和 48 年卒）

相変わらず週 4 テニス、筋トレ続けています。（春）

青山 宏（昭和 49 年卒）

毎日元気に過ごしています。最近は上京することもなく、自宅と家庭菜園の畑での生活です。（春）

中川 正臣（昭和 49 年卒）

定年退職後も公園で清掃のアルバイトをしています。どんな状況でも「スポーツの力」、大切ですよ。（春）

三五 淳一（昭和 51 年卒）

3 年目に入ったコロナウィルスとの戦いですが、もう少し・・・もう少しです。皆様お体ご自愛下さい。（春）

高木 隆雄（昭和 51 年卒） 絵実（昭和 53 年卒）

現役の活躍を応援しています。（春）

篠原 宏明（昭和 52 年卒）

今年のインター杯は高知で開催されます。自分は高知市内の女子中高テニス部の外部コーチとしてインター杯を目指しています。ジュニアの中から母校テニス部に進んでくれたらとの想いをもちジュニアの育成に努めています。100 周年の次のイベントは予定されていますか。諸先輩方、後輩達と会いたいものです。（春）

檜垣先生のご冥福をお祈り申し上げます。自分は両膝の骨切り手術を行い、現在はリハビリ中です。テニスはまだ出来ませんが、県のジュニアを中心に普及、強化活動を行っています。コロナ禍の影響で高知県から出ていませんが、ボチボチ出掛けたいと思っています。現役の練習も大変だと思いますが、トライ&チャレンジして欲しいと思います。（秋）

坂内 晴夫（昭和 52 年卒）

農大テニス部の活躍を心より祈念いたしております。（春）

村石 慶二（昭和 52 年卒）

50 年も過ぎ、大学へもう一度行ってみたいと思っています。先輩や後輩にも会ってみたいものです。（春）

保坂 大二郎（昭和 59 年卒）

コロナ禍 3 年目に入り、アルコール業界は打撃を受けております。世界的なパンデミックなので、これからどうなるのか心配。ロシアも何でしょう。今時、武力戦争なんて。（春）

（訃報）

鈴木 敏雄さん（昭和 37 年経済卒） 平成 30 年 5 月逝去。

永井 昌嗣さん（昭和 39 年造園卒） 令和 4 年 1 月 4 日逝去。

檜垣 宮都さん（第 9 代部長） 令和 4 年 7 月 23 日逝去

以上の方々が逝去されました。謹んでお悔やみ申し上げます。

（合掌）

◎ 新入会員（第117期）の紹介

金子 一光さん（地域創成科学科）

杉畠 志治さん（地域創成科学科）

高橋 陽明さん（分子微生物学科）

千葉 匠さん（分子微生物学科）

平山 雄さん（食品安全健康学科）

坂田 瑠美さん（造園科学科）

斎藤 真歩さん（分子微生物学科）

部活動報告

男子

令和四年度 関東学生テニスリーグ (第三部)

第一戦 東京国際大学 8月30日 東農大コート (0対9)

- D 1 片野・針生 (3-6 0-6) 佐藤・手塚○
2 石原・青木 (3-6 1-6) 植田・中畳○
3 大和田・林 (1-6 2-6) 井田・有浦○
- S 1 林 (3-6 1-6) 植田○
2 片野 (0-6 1-6) 手塚○
3 石原 (4-6 6-3 4-6) 栗原○
4 針生 (1-6 4-6) 佐藤○
5 青木 (4-6 3-6) 力武○
6 松本 (1-6 3-6) 神園○

第二戦 上武大学 9月2日 上武大コート (1対8)

- D 1 片野・針生 (0-6 0-3) 三井・小町谷○
2 石原・青木 (2-6 6-4 6(3)-7) 長谷川・畠山○
3 大和田・林 (1-6 0-6) 富田・深町○
- S 1 林 (3-6 0-6) 熊倉○
2 片野 (0-6 0-6) 三井○
3○石原 (6-0 6-1) 日熊
4 針生 (4-6 2-6) 小町谷○
5 大和田 (1-6 0-6) 畠山○
6 青木 (0-6 4-6) 中○

第三戦 東洋学園大学 9月5日 東学大コート (2対7)

- D 1 片野・林 (0-6 3-6) 庄崎・白川○
2 石原・青木 (5-7 6-2 5-7) 小野・佐々野○
3 大和田・針生 (3-6 6(6)-7) 井上・高木○
- S 1 林 (4-6 2-6) 高木○
2○石原 (6-1 6-2) 久保
3 片野 (2-6 3-6) 白川○
4 大和田 (2-6 2-6) 小野○
5 針生 (4-6 1-6) 庄崎○
6○青木 (6-4 5-7 6-1) 山本

第四戦 立教大学 9月8日 東農大コート (0対9)

- D 1 石原・青木 (2-6 3-6) 在原・保坂 ○
2 針生・中村 (0-6 1-6) 稲田・小林○
3 大和田・林 (0-6 2-6) 新垣・岡崎○
- S 1 片野 (2-6 1-6) 稲田○
2 中村 (0-6 1-6) 小林○
3 石原 (2-6 4-6) 保坂○
4 青木 (4-6 4-6) 大澤○
5 針生 (1-6 4-6) 角田○
6 松本 (1-6 4-6) 小木曾○

最終戦 日本体育大学 9月11日 日体大コート (0対9)

- D 1 石原・青木 (5-7 6 (7) -7) 森健・須崎○
2 中村・針生 (5-7 1-6) 倉橋・出井○
3 大和田・林 (6-4 3-6 3-6) 古賀・日高○
- S 1 片野 (0-6 0-6) 須崎○
2 中村 (0-6 1-6) 出井○
3 石原 (6-4 1-6 0-6) 森○
4 青木 (1-6 4-6) 倉橋○
5 大和田 (2-6 4-6) 青木○
6 松本 (3-6 2-6) 村上○

入れ替え戦 獨協大学 9月18、19日 JKテニスクラブ (4対5)

- D 1 ○石原・青木 (6-2 7-5) 山上・松岡
2 大和田・林 (1-6 0-6) 福田・望月○
3 ○針生・中村 (6-3 6 (6) -7 6-3) 高木・立川
- S 1 片野 (0-6 0-6) 福田○
2 ○石原 (6-2 6-0) 佐藤
3 中村 (6-4 4-6 5-7) 柴崎○
4 青木 (6-3 5-7 6 (5) -7) 山上○
5 ○針生 (6-4 6-3) 望月
6 大和田 (0-6 2-6) 立川○

令和三年度 関東学生新進テニス選手権大会

延期するも新型コロナウイルスによる影響のため中止

令和四年度 関東学生テニストーナメント大会 (春関)

男子複 一次決勝

○林・中村 (6-4) 時澤・仲川 (東海大学)

男子複 二次準決勝

○石原・福田 (獨協大学) (4-2 5-3) 横田・加藤 (日本大学)
林・中村 (0-4 0-4) 脇坂・高木 (慶應義塾大学) ○

男子複 二次決勝

石原・福田 (獨協大学) (2-4 4-2 7-1 0) 山田・森 (日本体育大学) ○

令和四年度 関東学生テニス選手権 (夏関)

男子単一次決勝

石原 (1-6) 玉木 (駒澤大学) ○
吉村 (2-6) 芳谷 (亜細亜大学) ○

男子複一次決勝

石原・吉村 (1-4 4-5 (2)) 高・高木 (日本大学) ○

女子

令和三年度 関東大学テニスリーグ (第5部)

第一戦 成城大学 8月28日 成城大コート (4対3)

D1 永田・加藤 (0-6 0-6) 萩原・岩瀬○
2○千歳・益子 (6-0 6-1) 湯澤・坂本
S1○永田 (0-6 6-3 6-2) 坂本
2○益子 (0-6 6-1 6-3) 湯澤
3 田邊 (0-6 1-6) 萩原○
4○千歳 (0-6 6-1 6-0) 千歳
5 清瀬 (0-6 1-6) 岩瀬○

第二戦 成蹊大学 8月31日 成蹊大コート (1対6)

D1 永田・田邊 (1-6 2-6) 谷口・川口○
2 益子・千歳 (6-2 6-2) 中島・五十嵐○
S1 永田 (6-2 3-0 ret) 中島○
2○益子 (1-6 0-6) 松田

- 3 加藤 (6-0 6-0) 五十嵐○
- 4 田邊 (6-1 6-2) 關瑠○
- 5 千歳 (7-5 6-3) 谷口○

5～6位決定戦 國學院大学 9月3日 國學院大コート (6対1)

- D1 ○益子・千歳 (6-0 ret) 佐野・中川
2 ○永田・田邊 (6-4 6-0) 藤井・曾我部
- S1 ○益子 (6-0 6-0) 小宮
2 ○永田 (2-6 6-3 6-2) 本庄
3 ○加藤 (3-6 6-2 6-4) 村上
4 清瀬 (1-6 0-6) 佐野○
5 ○千歳 (6-0 6-0) 河西

5位決定戦 東京大学 9月6日 東京大コート (3対4)

- D1 ○益子・千歳 (6-0 6-1) 西川・飛鳥井
2 永田・田邊 (2-6 1-6) 前川・松本○
- S1 永田 (2-6 1-6) 前川○
2 加藤 (0-6 0-6) 西川○
3 ○益子 (6-2 6-0) 飛鳥井
4 清瀬 (0-6 0-6) 船木○
5 ○千歳 (6-0 6-0) 白石

令和三年度 関東学生新進テニス選手権大会

延期するも新型コロナウイルスによる影響のため中止

令和四年度 関東学生テニストーナメント (春関)

予選敗退

令和四年度 関東学生テニス選手権大会 (夏関)

女子単 一次決勝

永田 (1-6) 岩田 (東海大学) ○

女子複 一次決勝

益子・千歳 (6-7(5)) 鈴木・加藤 (青山学院大学) ○

さらば先輩

大和田 駿 (生産環境工学科)

ヨッ！みんな大好きユニクロ王子！ #春から公務員

片野 航 (分子生命化学科)

死ぬまで現役。テニスへの愛は誰にも負けない！

松本 健太 (国際農業開発学科)

テニス大好き。後輩思いのお財布。知識の塊。

小川 直輝 (分子微生物学科)

テニス大好き。昼食は愛の籠ったお弁当。

稲荷 碩竜 (生物資源開発学科)

愛媛生まれのみかん先輩。厚木から来るテニス好き。

永田 夏帆 (分子生命化学科)

話した男、みんなを虜に。農大の橋本環奈。ファッションリーダー

田邊 こころ (醸造科学科)

農大テニス部の母。乳酸菌大好き。パンの事ならお任せあれ！

清瀬 夏美 (栄養科学科)

みんなのアイドルなつみん！課題に追われて痛覚無くす。～結婚式呼んでね～

令和四年度関東大学テニスリーグ

男子順位表

第1部	1位 早稲田大学	2位 慶応義塾大学	3位 法政大学
	4位 明治大学	5位 中央大学	6位 日本大学
第2部	1位 亜細亜大学	2位 駒澤大学	3位 筑波大学
	4位 青山学院大学	5位 立教大学	6位 東京国際大学
第3部	1位 東海大学	2位 専修大学	3位 日本体育大学
	4位 上武大学	5位 獨協大学	6位 東京理科大学
第4部	1位 東京農業大学	2位 東洋学園大学	3位 成城大学
	4位 東京大学	5位 千葉大学	6位 成蹊大学
第5部	1位 関東学院大学	2位 横浜国立大学	3位 国土舘大学
	4位 明治学院大学	5位 順天堂大学	6位 東洋大学
第6部	1位 東京学芸大学	2位 帝京大学	3位 学習院大学
	4位 東京工業大学	5位 芝浦工業大学	6位 一橋大学
第7部	① 千葉商科大学	② 横浜市立大学	③ 東京経済大学
	④ 麗澤大学	⑤ 上智大学	⑥ 國學院大学
	⑦ 神奈川大学	⑧ 玉川大学	⑨ 東京都立大学
	⑩ 明海大学	⑪ 大東文化大学	⑫ 創価大学
	⑬ 工学院大学	⑭ 茨城大学	⑮ 文教大学
	⑯ 高崎経済大学	群馬大学	山梨大学
	宇都宮大学	埼玉大学	東京電気大学
	電気通信大学	東京都市大学	国際基督教大学
	高千穂大学	流通経済大学	千葉経済大学
	敬愛大学	東京工科大学	東京外国語大学
	明星大学	武蔵大学	駿河台大学
	神奈川工科大学	千葉工業大学	

女子順位表

第1部	1位 慶応義塾大学	2位 筑波大学	3位 亜細亜大学
	4位 早稲田大学	5位 山梨学院大学	6位 明治大学
第2部	1位 駒澤大学	2位 東京国際大学	3位 法政大学
	4位 専修大学	5位 立教大学	6位 日本大学
第3部	1位 東海大学	2位 青山学院大学	3位 日本体育大学
	4位 東洋英和女学院大学	5位 東洋大学	6位 東京経済大学
第4部	1位 東京女子体育大学	2位 東洋学園大学	3位 日本女子体育大学
	4位 上武大学	5位 順天堂大学	6位 上智大学
第5部	① 聖心女子大学	② 学習院大学	③ 成蹊大学
	④ 獨協大学	⑤ 東京大学	⑥ 東京農業大学
	⑦ 明治学院大学	⑧ 國學院大学	⑨ 東京学芸大学
	⑩ 横浜国立大学	⑪ 明海大学	⑫ 成城大学
	⑬ 東京理科大学	⑭ 一橋大学	⑮ 東京都立大学
	⑯ 千葉大学	東京外語大学	国士舘大学
	群馬大学	高崎経済大学	芝浦工業大学
	玉川大学	文教大学	国際基督教大学
	日本女子大学	明星大学	武蔵大学
	お茶の水女子大学	東京都市大学	都留文化大学
	東京工業大学	電気通信大学	茨城大学
	横浜市立大学	山梨大学	大東文化大学
	創価大学		

編集後記

今年も躍進を発行できる。ご協力くださったOB諸兄、現役部員に深謝する。昨年久しぶりにリーグ戦が再開できた。高みを目指せば負けはつきものである。徹底的に結果にこだわりながらも、結果に引きずられることなく、立ち上がって前に進みたい。世の中に目を転じれば憂鬱になるニュースも多いが、国枝慎吾氏への国民栄誉賞授与などテニス界には明るいニュースも目にする。決勝で敗れはしたが全豪オープンの青山選手・柴原選手のダブルスにはワクワクさせられた。多様な人々がテニスを楽しみ、多様な人々のテニスを見て楽しめる今がある。100年後に農友会硬式庭球部のバトンを繋ぐことも夢ではないと思う。

広告



てんぷら **てんぢら**

創業明治18年

東京都中央区日本橋本町4-1-3

☎03-3241-7035

昭和59年卒

奥田秀助

祝 リーグ戦再開

広告掲載承ります。

躍進編集委員会

東京農業大学

庭球部OB会

常磐松テニス倶楽部

農友会硬式庭球部

発行 令和五年三月

編集委員長 富田 恭正

編集委員 加藤 未悠

久富 溪太

印刷所 忠栄印刷株式会社

03 (3653) 1511

